

## 「我が家から火を出さない」 これが私たちのあいさつです。



6支部140人の主婦の集まりから始まりました。昭和55年3月のことです。現在は25支部726人のクラブ員がいます。今でこそ、そろいのハッピを着て活動していますけど、最初はタスキがけでしたし、そのハッピも何年も着込んで随分と色あせてしまいました…。

「我が家から火を出さない」を合言葉にして、主婦として火事を起こさないということを常に心がけて活動を続けてきました。クラブ員の主体は家庭婦人です。今では多くの者は仕事をもちながら、このようにボランティア活動をしています。それなりに苦勞もありますが、それぞれが家庭を守るという責任を自覚をしています。大変だ



● 安城市婦人防火クラブ連絡協議会  
平成17年安全功労者内閣総理大臣賞受賞

とかつらいとは思いません。それに、深く考え込まずに気楽にやれているから、長続きするのでしょうね。今回の受賞も、誰が何をした、というより一人ひとりが熱心に活動が続けてきた蓄積、小さな輝きの集まりが大きな結果を生んだと思っています。

各支部の代表、役員は県の防災センターへ行ったり、6月と12月には「防火・防災教室」として消防署で初期消火の対応や普通救命講習を学んだりした後に、各支部へ戻って他のクラブ員に伝えます。初動の大切さを知り、家庭の中でもし何か起きたら、まず自分がどう対処すればいいのかと、皆熱心に聞いています。春と秋の火災予防運

### 筆者のつぶやき

協議会を代表して会長の野村佳代子さん、監事の中野弘子さんにお話を伺いました。たくさんのお話の中で印象深かったことをもう1つ…。「以前は、年に1回文集を発行していたけれど、何にも事件がないから書くことがなくて。これが苦勞だったかしらね」と明るくおっしゃられて。「何にもない」家内安全、何よりですね。

動にも参加しますし、10月には代表6支部が県消防学校指導者科に入校します。

毎月19日には「防火の日」の宣伝と火災予防の呼びかけ運動をしています。一時中断したこともありましたが、今年の6月から再開しました。市内4か所の消防署・分署を拠点にグループを編成して、1グループで3・4町内を巡回します。

さらに、各地域での自主防災訓練にも積極的に参加して、初期消火や救護訓練、炊き出しなどを中心に活躍しています。防火のみではなく、防災という面にも活動の場が広がってきています。時代のニーズに応えられるように、新しいこともどんどん勉強していきたいです。若い人がもっと増えてもらいたいし、新しい考えも取り入れて進んでいきたいですね。